

第67回テーマ：
ナショナルトラスト運動と
ヴォーリズ六甲山荘



ヴォーリズ六甲山荘北面

講演内容

- ナショナルトラスト運動
- アメニティ2000協会の活動
- ヴォーリズ六甲山荘と
今後の展開

実施日：平成20年10月18日(土)
午後1時～3時45分
場 所：ヴォーリズ六甲山荘



講師：清水 彬久さん
プロフィール

1946年生まれ。神戸市出身。関西学院大学卒業。自然と歴史的環境の諸問題を学習する研究会「自然と歴史から学ぶ会」を発足、2000年にNPO「アメニティ2000協会」を設立し理事長に就任。歴史的建築物の保存活動を進めている。

六甲山上の静かな山荘を訪ねた

朝から雲ひとつない秋晴れの日となりました。今回は、国の有形文化財に登録されることが決まったばかりのヴォーリズ六甲山荘に会場を移して、20名の参加者で開催しました。講演の終盤に、講師の清水さんから山荘の内部や外部のヴォーリズ設計の特長を説明していただき、山荘の半日をゆっくり楽しみました。

筋の通ったロマンティストの清水さん

清水さんは、昭和40年から平成にかけて実業の世界に身を置かれていました。戦後、日本が物質の豊かさを得たことと引き換えに失ってきたものの大切さを見直すことに関心を注がれました。

失ったものをなんとか守ることできないかと、2000年に特定非営利活動法人アメニティ2000協会を設立され、理事長に就任されました。創立時17名だった会員は現在380名となり、着々と活動基盤を築いておられます。

2002年4月から阪神間に残る戦前の建築物の実態調査を開始し、3年間で400件の存在を確認しました。

その中から御影住吉山手の旧乾邸と、今回のヴォーリズ六甲山荘の保存活動を決めました。



山荘の柔らかない灯り

建築物のナショナルトラスト運動

アメニティ2000協会は広く募金を集め、その基金で歴史環境を保存し、管理・運営する英国ナショナルトラスト運動の考え方を柱としています。建物を対象としたナショナルトラストとしては、日本で最初の事例とのことです。

「しかるべきものが、しかるべきところにある」状態を保存することを強調されました。この活動を多くのボランティアが支えているのが英国ナショナルトラスト運動の特徴です。しかし日本ではまだそこまでボランティア活動が根づいていません。さらに行政の考え方、ひいては国民性も英国とは開きがあると、清水さんは取り組んでいる課題の困難さも述べられました。

当会の会員も300名にしたい

清水さんは、理路整然とした信念が伝わる講演をされ、参加者が感銘を受けました。ヴォーリズ六甲山荘を保存することにも「一人ひとりの志を募る」ことが380名の会員の方々に共感されたのだと思いました。

当会の活動期間は同じでも、会員数が半分にも達しません。われわれも共感者を募って会員数を300名にしたいと、大きな刺激をいただきました。

※詳しくは、1、2ページをお読みください。

参加の感想 山下昌子さん

ヴォーリズ六甲山荘について、概略は以前から知っていましたが、六甲山のどの辺りに建設されているのかはセミナーに参加するまで知りませんでした。

制約が多い日本のナショナルトラスト運動の地道な活動の話を講師の清水さんから拝聴しながら、歴史的な建物を育てている六甲の自然も満喫できました。また、セミナーを通して多くの方に出会ってお話ができただけでも楽しかったです。



山下昌子さん

主催：六甲山自然保護センターを活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局 灘区役所 神戸市教育委員会

【助成金をいただいている機関】

コベルコ環境保全基金、灘区役所

公益信託自然保護ボランティアファンド、

公益信託 TaKaRa ハーモニストファンド



第67回市民セミナーの流れ

市民セミナー

- 1. あいさつ : 13:00~13:10
- 2. 講演 : 13:10~15:00
- 3. 休憩 : 15:00~15:15
- 4. 見学 : 15:15~15:45

講演

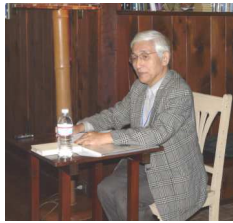
- ナショナルトラスト運動
- アメニティ2000協会の活動
- ヴォーリス六甲山荘と今後の展開



山荘入口

講演の挨拶（清水彬久さん）

アメニティ2000協会は環境保全をテーマに活動しています。ヴォーリス六甲山荘の保存は、協会の大きな活動のひとつです。まず、アメニティ2000協会を立ち上げた背景からお話します。



清水さん

講演内容

1. アメニティ2000協会設立の背景

■豊かになって3つのものを失った

日本は戦後、高度成長期からバブル崩壊に至るまで紆余曲折があった。我々は豊かにはなったが、失ったものが3つあると私は考えている。ひとつは「自己および他者との関わり」が希薄になっていること。二つ目は「自然との関わり」が薄くなり、自然がなくても生活できる社会を作り出してきたこと。最後に「歴史との関わり」において、過去と未来の関係を遮断し、歴史の連続性を失わせてしまっていること。

このような状況で自分の果たす役割を考えた。

■英国での体験と震災経験が設立のきっかけ

英国に滞在したときにナショナルトラスト運動と出会い、保存運動の素晴らしさを体験した。その後、阪神淡路大震災でふるさとは崩壊する体験をして、何を抛り所にして生活するのかを考えた。

1970年のひろしま宣言の中の「人間の能力の中で最も弱いものは想像力であり、最も強いものは忘却力である」という言葉に影響を受けた。失ってはならないもの、犠牲にしてきたものを守り、再生することに軸を置いて、2000年にアメニティ2000協会を立ちあげた。



西日が心地よい六甲山荘

2. 英国ナショナルトラストのあゆみ

■経済成長のひずみをバネに始まった

19世紀、欧米は大きな経済成長を遂げたが、環境破壊や労働条件の悪化という問題が生まれた。特に当時先進国だった英国では顕著だった。

その中でYMCAの活動や詩人のワーズワース、ラスキン達の自然保護の訴えが起きた。1895年、貴重な自然や歴史的な資産を守るために自ら取得して保全していこうというナショナルトラスト運動が始まった。

■桁外れの会員数と保存規模

現在の英国ナショナルトラストは、民間としては最大の総面積250万ヘクタールの不動産を保有する。建物・構築物350カ所、村落56カ所にわたり、特色としては海岸線の保存が1,120キロメートルにも渡ることがあげられる。340万人もの会員（イギリスの人口は約6,000万人）が英国資産を保存する役割を担っている。

■ボランティアの底力が運営を支える

資産の運営は、4万3000人のボランティアが中心となっている。彼らが自ら歴史的遺産を守っていることに感銘を受けた。古き良きものを大事にする価値観が英国の国民性に根付いている。ボランティアとして社会的責任を果たすのが当然の行為であるというキリスト教的な考え方も強く、彼らの活動が大きな力となって英国の歴史の継承を支えている。

3. ヴォーリス六甲山荘と今後の展開



ヴォーリス六甲山荘の全体模型

■建築当時の姿をとどめる六甲山荘

ヴォーリスは1880年生まれのアメリカ人で、キリスト教の伝道者として日本に来た人物。はじめ建築家志望だったこともあり、日本で数多くの西洋建築を手がけた。現在の近江兄弟社の創立者のひとりとしても知られる。

六甲山荘は1934年に関西学院大学の教授だった小寺氏の別荘として建てられた。当時のオリジナルのまま保存されており、評価が高い。我々は「簡素にして品格がある」建物と表現している。

■住む人や環境に合わせたヴォーリスの建築

六甲山荘に来た人はよく「居心地がいい」と言うが、住む人の気持ちを汲み、環境に合わせて設計したヴォーリスの精神が宿っているからだと思う。リビングは日本人には馴染みのない北向きだが、これは避暑の生活を意識したため。湿気の多い六甲山に合わせて建物の土台は高く造られ、窓の棧は雨露がたまらないよう斜めになっている。

■六甲山上の文化を形成する役割を担う

六甲山荘は370名から募金を集めて、2008年の3月に購入した。会員自身の手で建物を守っていき、ほぼ全てを自分たちで管理している。山荘はナショナルトラストの考え方に基づいて、敷地も含めた自然を残し、総合的に素晴らしい空間にしている。

六甲山上には他にも歴史的文化的財がある。県も市も観光には熱心だが、文化的見地は希薄。われわれには、他の施設と連携を取りながら文化を形成するという役割もある。



向かい合える暖炉のイス

軽く動く窓に感心

＜山荘を見学しました＞

講演終了後、ヴォーリス六甲山荘の見学会が実施されました。家族団らんのためのスペースが設けられた暖炉周りや、壁に埋め込まれた機能的な収納スペースなど、ヴォーリス設計の特徴が随所に確認できました。建築後70年経った今も、ぴったりと閉じるリビングの窓には参加者から感嘆の声が上がりました。

質疑応答

税金の問題は？：寄付金の恩典措置の訴えはしているが、税制上の優遇は全くない。文化行政という点では日本は遅れている。

六甲山で他に歴史的な山荘は？：探せばあるが、傷みが激しい等の問題がある。個人所有のため公開しないケースも多い。

まとめ(清水さん)

ヴォーリス六甲山荘を保存していくことが良い歴史の連鎖として実績になり、歴史を守る力になると考えています。

私はヴォーリス六甲山荘の購入が決まった時、会員の皆さんに「待望の時が来た。これは終着でなく、始まり」と話しました。行動を起こさなければ何も始まりません。アメニティ2000協会の理念に従って、ろうそくに火をつけていく活動を続けています。

参加の感想 森 康博さん

ナショナルトラスト運動からヴォーリス六甲山荘に繋がる話は、清水さんの淡々とした話し振りと非常に整理された内容でよく分かりました。

アメニティ2000協会の志には賛同すると共に敬意を感じます。お話の主題である、「失ってはならない自然や、物的精神的文化を享受すると共に、未来に引き継いでいくという精神」は、六甲山についても言えることだと思います。



森さん

事務局より

アメニティ2000協会を支えている、清水さんの保存活動に対する思いが静かに伝わってきました。失ってきたものを再発見することは、私たちの活動にも共通しています。同じく六甲山で活動するものとして心強く、また身の引き締まる思いでした。

◆参考・配布資料など

- レジュメ「ナショナルトラスト運動とヴォーリス六甲山荘」
- パンフレット「アメニティ2000協会への招待状」
- パンフレット「ヴォーリス六甲山荘」

◆参加者の声～アンケートより～

- 維持していくことの大変さをひしひしと感じた。
- 静かにゆったりとした環境でとても良かった。
- 協会の努力で山荘はよく手入れされていると感じた。
- 現場でのお話は臨場感を体感しながらで有意義であった。

特定非営利活動法人 アメニティ2000協会
〒662-0833 西宮市北昭和町3-20
電話：0798-65-4303 FAX：0798-65-4303
E-mail：soshisha@f6.dion.ne.jp
URL：<http://homepage3.nifty.com/amenity2000/>

◆参加者：20名（50音順・敬称略）

浅井 審一 大垣 廣司 君野 豊子 清水 彬久
高橋 貞美 竹尾 重人 堂馬 英二 堂馬 佑太
中野 泰則 中村久美子 西井 豊 林 慶一郎
林 (奥様) 村上 定広 森 康博 山下 昌子
山下 裕 山下 昌人 山田 良雄 米村 邦稔